

水田多年生雑草の除草剤

終戦直後 2,4-D を初めとして数種の除草剤が輸入されあるいは開発されて、水田に適用された結果、水稻作上最も労苦の甚だしい除草の問題が解決されたかのようにさえ思われたが、これらの薬がイネ科以外の、いわゆる広葉雑草のみに効くと言う特性から、ヒエ類を初めとするイネ科雑草の防除には暫時悩まされた。それをつかの間、イネ科雑草に選択的に効く除草剤が現われて、これら両者の混合等の方法によりイネ科、広葉両方の雑草を容易に退治することが出来るようになり、水稻作上労働の軽減に大きな貢献をしたことは今更申し述べるまでもない。

ところがこのように雑草退治は安易な除草剤に広く頼るようになって数年たつうちに、除草剤の多くが、宿根性雑草の根まで殺してしまう力がないため、水田には漸次宿根性雑草がばっこするようになり、第一に問題になったのがマツバイであったが、イネ刈取り後の処理剤、更に田植後初期の発生を押え得る有効な薬剤が段々に開発されて、大体その薬剤防除は目鼻がついたと言えよう。しかし、ウリカワ、ミズガヤツリ、ホタルイ、オモダカなど宿根性ないしはこれに準ずる雑草については最近まで、ただ頭を悩ますのみで、打つ手がなかったが、ようやくこれらの悪草を押えることの出来る薬が現われ初めたことは、水田除草の上に又新しいエポックを作る時代が来たような気がする。これらの薬の中には他の除草剤と混用することによって効果の発現が著しく助長されるものがあるので、同時に 1 年生雑草の初期ないし中期防除をねらって混剤の組み合わせを考え、今年各地で試験を行なったが現地での検討から見てすこぶる

目 次

生育調節剤開発の現状と方向

—イネ作を中心として—

はじめに	2
イネ作と生育調節剤	2
苗の生育調節	2
倒伏の化学的防止	3
冷害の化学的予防	4
登熟期間の調節	4
根ぐされ防止剤	5
老化の調節剤	5
品質および貯蔵性向上剤	6
あとがき	7

農林省農業技術研究所 太田保夫

花き栽培における生育調節剤の利用

繁殖	8
休眠打破	10
生長調節	10
伸長抑制	11
開花調節	12
ほう芽の調節	13
摘心・摘蕾	14
切り花の日持ち延長	14

農林省園芸試験場そ菜部 歌田明子

水田における多年生雑草の発生面積

について	16
------	----

(財) 日本植物調節剤研究協会

植調協会だより	18
---------	----

有望なものの少なくないことは誠に喜ばしいことである。

(日本植物調節剤研究協会会長 河田 党)